



令和6年度

**自治振興区
活動促進補助金**

実績報告書



1 団体名	西城自治振興区
2 事業名	ドローンサッカーin 西城～次代を担う人材育成と多世代交流を目指して～
3 事業費	2,156,204 円（うち補助金：1,724,000 円, 自主財源 432,204 円）
4 事業内容	

○ドローンサッカーの体験会の開催

- ・西城自治振興センターで開催された講座・交流会での実施
- ・サロンでの実施
- ・各自治会主催の敬老会で実施
- ・地域振興部会での実施

○関係機関と共催した体験会の実施

- ・「ドローンサッカー体験 in 西城」の実施
- ・広島県立体育館での体験会（令和 8 年 2 月 28 日実施予定）
- ・広島県子ども会健全育成大会（備北大会）での体験会
- ・広島国際学院高校での体験会
- ・西城放課後児童クラブでの体験会

○各種イベントでの PR

- ・さくらフェスティバル、広島県立大学庄原キャンパス学園祭（白楊祭）

○ドローンサッカーの機器のメンテナンス

○ドローンサッカー普及を中心的に担う地域マネージャーの募集及びスタッフの育成

5 波及効果

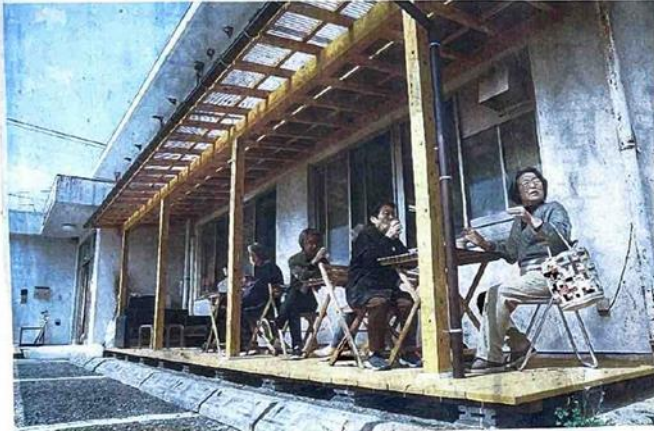
- ・令和 6 年 9 月から令和 8 年 1 月までで、ドローンサッカー体験会を 25 回実施した。参加者は 558 名、体験者は 434 名で、月平均参加者は約 31 名、体験者数は約 24 名だった。
- ・令和 6 年度西城自治振興センター利用者数は、6,775 名で令和 5 年度の 4,204 名を上回っていた。
- ・令和 7 年度西城自治振興センター利用者数は、令和 8 年 2 月 1 日現在で、4,226 名だった。
- ・ドローンサッカー体験会では、10 歳の子どもから 70 歳代の方まで幅広い年齢層の方が楽しまれた。アンケートでは、また体験したいという回答が多かった。

6 活動写真



1 団 体 名	庄原市高自治振興区
2 事 業 名	交流とにぎわいの暮らしの場づくり（住民の縁側）整備作業（高幸せ計画具現化事業）
3 事 業 費	1,677,757 円（うち補助金：1,342,000 円, 自主財源 335,757 円）
4 事 業 内 容	<p>「交流とにぎわいの暮らしの場（住民の縁側）づくり整備事業」 駅前周辺エリアと自治振興センターエリアを新たな交流とにぎわいの暮らしの場として設定し、常に開かれた「住民の縁側」として今回は自治振興センターエリアを整備した。</p> <p>○自治振興センターエリア 高自治振興センターは住民が気軽に憩い交流できるスペースがないため、屋外に「にぎわいカフェテラス（フリースペース／住民の縁側）」を整備した。従来からのイベントに加え新たにイベントにも取り組み振興センターが住民の楽しみ・生きがい・安心の場となるよう住民活動拠点の充実を図った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・にぎわいテラス（フリースペース／住民の縁側）の整備 鉄筋コンクリートの自治振興センター底下に新たに木製の庇（縦 1.7m×横 9.1m高さ 2.739m）と木製デッキ（縦 1.5m×横 9.1m）や机・椅子等を整備した。
5 波 及 効 果	<p>本事業で整備した「にぎわいテラス」は、単なる施設の改修を超え、多世代が自然に集い、新たな活動が生まれる「高自治振興区の象徴的な交流拠点」として機能し始めています。</p> <p>① 多世代交流の創出と次世代の育成 テラス活用プロジェクトの第一弾として、高小学校6年生による「ワンデイカフェテラス」を開催しました。児童が自ら作ったおやつと「たからコーヒー」を地元の高齢者に振る舞うこの取り組みは、子どもたちにとっては地域貢献の達成感を、高齢者にとっては次世代との触れ合いによる生きがいを生む貴重な機会となりました。この様子は中国新聞にも掲載され、地域の活気ある姿を広く発信する契機となりました。</p> <p>② 既存行事の満足度向上とコミュニティの深化 「狼煙上げ交流会」や「年末大掃除」といった従来の地域行事において、テラスを憩いの場として組み込むことで、行事の質が大きく向上しました。</p> <p>心地よい空間による対話の促進：開放感のある屋外で食事やコーヒーを楽しむ時間は、参加者から「気持ちが良い」と非常に好評で、自然と会話が弾む光景が見られました。</p> <p>「ついでに立ち寄れる」場の定着：行事の前後で「つつい話話が盛り上がる」場となったことで、住民同士の心の距離が縮まり、連帯感の醸成に大きく寄与しています。</p> <p>③ 「住民の縁側」としての定着と今後の展望 当初の狙い通り、自治振興センターが「用事がある時だけ行く場所」から、「誰かと会える楽しみ・安心の場」へと進化しつつあります。整備された木製デッキや庇（ひさし）が、季節や天候を問わず住民を迎え入れる「住民の縁側」として機能し始めており、今後はこの場所を起点に、住民の主体的な活動がさらに波及していくことが期待されます。</p>
6 活 動 写 真	

ウッドデッキ 高の住民憩う



庄原市高町の高自治振興センターにウッドデッキが
お目見えした。完成記念と
して3月下旬にカフェイ
ベントがあり、多くの住民
でにぎわった。

春の陽光に照らされたデ
ッキ（奥行き1.5m、幅9
m）は、夫婦や友人同士で
連れ立った住民で満員に。
高地区のオリジナルコーヒ
ー「タカラコーヒー」を片
手に、友人との会話を楽し

高自治振興センターに完成し
たウッドデッキで談笑する住
民たち

庄原 完成記念カフェイベント

んだ近くの天野武子さん
(84)は「家に招くと大変だ
けど、ここはちょうど良い」
と楽しんでた。

高自治振興区によると、
カフェがない地域で住民が
集まれる場所をつくろうと
企画し、2024年11月に完成。
厳しい寒さのため、記念イ
ベントは春まで待った。同
振興区事務職員の中倉麻衣
子さん(43)は「気軽に使っ
ていただき、笑顔あふれる
場所にしたい」と期待して
いた。

(菊池諒)

1 団体名	庄原市比和自治振興区
2 事業名	パーティーシェード活用による行事・イベント活性化事業
3 事業費	350,768 円（うち補助金：280,000 円, 自主財源 70,768 円）
4 事業内容	<p>比和自治振興区は備北商工会比和支部や NPO 法人比和まちミュージアムと比和ゆめ街道ネットワークを結成し、地域の活性化を目指して「JAF ドライブスタンプラリーの取り組みやつなぐ棚田遺産三河内の棚田のアピール」などと地域行事・イベントを関連付けて内容の充実を図っているが、スタッフや出店者の高齢化などにより、大きくて重たい従来型のテントの準備片付けが負担となっている。そこで、誰でも簡単に設営できる小型の簡単テント（パーティーシェード）を購入し、スタッフや出店者の負担を軽減し、さらに農産物・特産品の販売促進のほか、比和体験の提供や比和の魅力を発信する場として活用するために次の物品を購入した。</p> <p>簡単テント等の購入目的</p> <p>①誰でも簡単に準備・片付けができるようにする。気軽に出店できる環境をつくる。 ②見栄えのする簡単テントを揃えイベント会場の雰囲気づくりを行う。 ③インスタ映えする会場をつくり来場者による情報発信を促す。小型テントなので配置を工夫できる。 ④救護テントや緊急時の個室テントとして使う。</p> <p>購入物品 1（テント関連品）</p> <p>◎コールマンパーティーシェードライト/300+（4 張）・専用サイドウォール（16 枚） ◎コールマンインスタントバイザーシェードⅡ/L+（4 張）・専用サイドウォール（16 枚）</p> <p>購入物品 2（電気機器や屋外用音響システムの使用で使用する屋外用コードリール）</p> <p>◎屋外用延長コードリール 100V15A</p>
5 波及効果	<p>購入初年度の活用（2024 年 8 月から）</p> <p>役員会、広報誌、SNS 等でテント購入を紹介し、テント設営講習会を実施した。 ・テント設営講習会参加者（各自治会代表、スポーツ協会、比和社協、振興区地域活性化部員）13 名 ・振興区関連行事で使用（グラウンド・ゴルフ大会、ミニ比和に集まるシェ）5 張 ・三河内地域自治会へ貸出（ぼにばな縁日会の染め物体験）2 張</p> <p>購入次年度の活用（2025 年 4 月から）</p> <p>役員会で比和に集まるシェや山開きの紹介を兼ねてテントの貸出について説明し、各自治会で周知することを依頼。行事後テント貸出についての問い合わせが 5 件。 ・テント設営講習会（各行事のスタッフや参加者へ説明しながらテント設営）延 30 名 ・振興区関連行事で使用（比和に集まるシェ、吾妻山山開き、ミニ比和に集まるシェ、やまびこ祭り、振興区グラウンド・ゴルフ大会）10 張 ・三河内地域自治会へ貸出（ぼにばな縁日会及びドライブスタンプラリーイベント）3 張 ・三河内地域自治会へ貸出（三つ子山祭り）2 張 ・スポーツ協会比和支部へ貸出（老人クラブペタンク大会）2 張 ・地域グループへの貸出 2 件（グループ行事）2 張 ・コードリールは比和の盆踊りや山開き、振興区のグラウンド・ゴルフ大会等の音響で使用。</p> <p>○「簡単に準備ができ片付けも楽なので使い便利が良い。」とスタッフにも出店者にも好評である。</p>
6 活動写真	

1 団 体 名	庄原市総領自治振興区
2 事 業 名	移動手段検討・実証実験事業
3 事 業 費	150,668 円（うち補助金：120,000 円, 自主財源 30,668 円）
4 事 業 内 容	<p>全世帯を対象に、移動手段及び買い物に関するアンケート調査を実施し、これをもとに地域全体で移動、買い物について、会議等を開催し、検討していく。</p> <p>他に公共交通空白地有償運送事業を実施している先進地の事例などを参考に、地域にあった移動手段を検討する。</p> <p>総領地域外での高齢者等の買い物、通院について支援方法を検討し、実証実験を行う（未実施）。</p>
5 波 及 効 果	<p>移動手段及び買い物に関するアンケート調査の結果から明らかになった課題を会議で検討し、一定の方向性（住民主体の生活交通体系の見直し案）を見出すことができた。</p>
6 活 動 写 真	なし